

# 岡崎嘉平太記念館

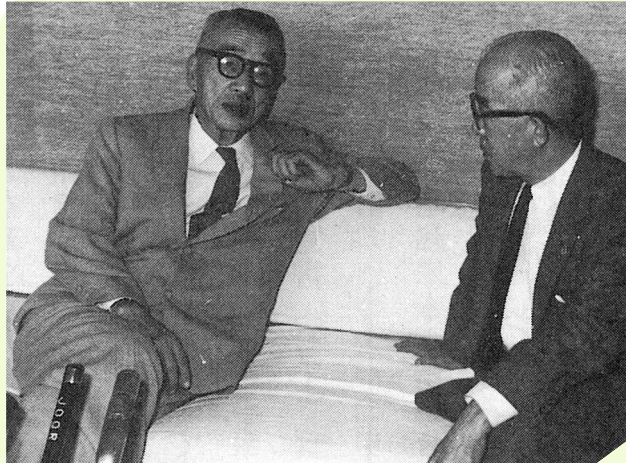
Vol. 18

だより



松村謙三氏（二八八三〜一九七二）

政治家。富山県出身。早大卒。報知新聞記者、国会議員（二期を経て、昭和三年の第一回普通選挙で衆議院議員に当選。以降公職追放の期間を除き同四四年まで衆議院議員。晩年は日中貿易を推進するなど日中国交回復に尽力。国交回復の一年前（同四六年）に死去。  
嘉平太氏とは、同三五年、亀山孝一氏の選挙応援で知り合った。



訪中する松村氏と羽田空港にて  
昭和37年(1962)

## 嘉平太氏が出会った人々

人間の生き方には、大きく分けると二通りあるように思う。一つは現世に  
あわせてうまくやっていくことであり、もう一つは現世には容れられなく  
とも、筋を通して生き抜くことである。松村さんも筋を通して生き抜かれた、  
現代では数少ない政治家の一人であった。（中略）私は、学生時代から取り  
組んでいた「中国」というテーマで一つの壁にぶち当たっていた。戦後、  
北京共産政権が誕生、共産政権では日本と中国とが手を握ってアジアを  
良くするというようなことは不可能なのではないか。（中略）しかし、やめる  
ならやめるで、新中国というものをこの目でみて、私なりの理屈をつけた  
上でやめよう。（中略）中国に対する深い造詣と熱意は私どころではない  
ことに驚かされ、敬服した。それを契機に積極的に教えを乞いに行き出した、  
というのが私が松村さんというかけがえのない師を見出した最初である。  
そうして一九五九年であつたらうか。松村さんは訪中したいという気持  
を強く固められはじめた。そうこうしているうちに、北京から招待状が  
届いた。当時、私は池貝鉄鋼の社長だったが、商談のためアメリカへ行か  
なければならぬ時期と重なって訪中を勧められたものの、やむを得ず  
お伴できなかった。ちょうど中国は三年続きの凶作で、大躍進が失敗したと  
伝えられていたときであった。松村さんにとっては最初の訪中だったが、  
中国は大歓迎してくれ、互いに政治理念、政治体制は異なっても協調して  
共存共栄を図るために、貿易も積み上げ方式でやろうじゃないか、という  
話になり、一九六三年から「貿易となつたわけである。（中略）頼りをなく  
したような寂しい気持ちになるほど自分が出来ていなかったことが残念で  
ある。いままでいかに松村さんに頼り切っていたという証左でもある。  
松村さんがニクソン米大統領の訪中で中国をめぐる世界の潮流が明るい  
方向へ動き出すことを知られて冥土の旅へたれたことは幸いであつたと  
思う。（一九七一年八月）岡崎嘉平太著『私の記録』（東方書店昭和五十四年発行より

■小堀治子氏（松村氏の次女は、「父を温かく守って下さった人」と題し、『先生と私』（岡崎嘉平太先生の長寿を祝う会一九八六年発行）の中で、嘉平太氏に宛て、次のように寄せられています。

先生と亡父（松村謙三）とは、中国との覚書貿易のたいへん困難の多い時代に、お互いに強く信頼しあつて、心を砕き努力していらつしやつたのを、横で拝見しておりました。（中略）「経済のこと」は岡崎さんに頼む」と父が申すのを、つねづね聞いておりました。先生と父がよく気が合いましたのは、どちらも大変頑固で、潔癖症で、そして心の温かい人柄のせいかと思ひます。

## 企画展「日中国交正常化の立役者 岡崎嘉平太」の開催

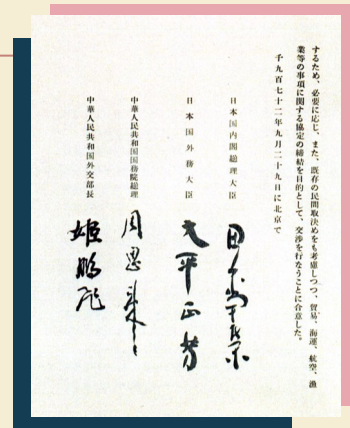
平成24年9月22日(土) - 12月27日(木)

期間中の入場者は、1,297人にのぼり、北海道、新潟、栃木、神奈川など県外からも来館者を得ました。ある来館者から、「時宜をえた企画でぜひみたいと思い来た。」という言葉がかけられ、うれしさと同時に、背筋が伸びる思いがしました。

■展示物の一部をご紹介します。

**国交正常化、その時……** 昭和47年(1972)9月29日に、中国・北京において、田中角栄・周恩来の日中両国首脳による「日中共同声明」の調印式が行われ、日本と中国の国交が正常化が実現しました。この調印により、昭和12年(1937)の日中戦争開始以来35年も続いた日中の国交断絶状態は改善され、平和と友好を発展させることが確認されました。

右写真は、日中共同声明の日中両首脳のサイン[写真資料提供:外務省]



**アジアの独立と開放 - みんなが胸を張って歩ける土地にしよう。それには中国と戦ってはいけない。むしろ手を握りあってアジアを独立させ、近代国家を打ち立てなければ-**

**私の考えは、中学時代から自然と頭の中に叩きこまれたもので、私の考え方は、主義などとは**

### 全然無関係なんだ

嘉平太氏が、生涯を通じて日本と中国の友好に尽力しようと志した原点は、学生時代に中国人留学生と交友を深めたことにあります。若き嘉平太氏の熱を感じる、達観した思いが胸に迫ります。

飛び渉る鳥の高くして峰深し  
断雲の飛ぶ峰々や巫山峡  
一鳥の飛び渉りたり峡の秋

これは、嘉平太氏が昭和47年に重慶を訪れ、『長江の山峡下り』を楽しまれた時に詠んだ歌と思われます。日記に記されていました。調印式ののち、嘉平太氏ほか覚書貿易事務所の職員らは、周総理から桂林などを巡る旅行に招かれました。そして、訪れた中国の各地で大変な歓迎を受けました。



国交正常化後、周恩来総理から招待された中国旅行での写真。中国対外貿易部次長 劉希文氏(左)と  
(昭和47年11月)



左の写真は、日中国交正常化の前年、昭和46年(1971)3月1日に、北京の人民大会堂にて、日中覚書貿易協定調印を終えた後に撮られた写真。

前列左端から河合良一氏、劉希文氏、田川誠一氏、郭末若氏、岡崎氏、周恩来総理、古井喜実氏、王国権氏、松本俊一氏。岡崎氏と周総理の後ろに大久保任晴氏。

## 岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える

## 第11回講演会の開催

平成24年11月3日(土)



このたびは講師に元中国駐大阪総領事で、嘉平太氏とご交流のあった劉智剛先生並びに中央大学総合政策学部教授の服部龍二先生をお招きしました。参加者は150人のぼり、関心の高さが感じられました。

服部先生は、近代外交史の研究がご専門で、日本外交史などを精緻に研究され、著書『日中国交正常化 田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』は、大佛次郎論壇賞などを受賞され

ています。講演では、近年、外務省外交史料館で公開された文書の紹介も交え、嘉平太氏と周恩来総理を共に日中関係を切り開いた「井戸を掘った人」と紹介されました。

劉先生は、中日覚書貿易事務所が設立された当時から、半世紀を超えて中日関係の発展に関わって来られました。貴重な経験の中から、さらなる日中友好関係の構築に向けてのご示唆をいただきました。

本講演の記録は、後日発刊します。

## 日中友好ふれあい 座談会の開催

平成24年12月6日(日)

写真は、重森計己さん、井上弘志さん、日名多津子さん、州脇浩さん、藤田晶子さん、植本壮一郎さんが、考えや交流経験などの発表をしている様子です。

嘉平太氏のふるさと吉備中央町と周恩来総理のふるさと中国・淮安市は、両氏の敬愛の絆が縁で、中学生を地元の民家に宿泊させることを核に据えた相互交流を隔年で続けています。前町長の重森さんは、アドバイザーとして参加していただき、町長としての貴重な経験もお話しくいただきました。



「信義を重んじる、つながっていく。」

嘉平太氏のご子息、彬さんは、座談会の開催にあたり、メッセージを寄せていただきました。彬さんからのメッセージは、当記念館ホームページに公開する予定です。

嘉平太氏は、何事も長期的な見方、考え方をされ、本質の把握に努められました。そして、中国の本当の姿を探求され続け、戦後の訪中は、百回を数え、身を以て友好の道を示されています。

このたびは、記念館と吉備中央町の共催で日中関係や交流に関心のある方を広く募り、40人の参加をえて、日中友好の経験や思いなどを、自由に語りあう貴重な機会となりました。

新しい催しのご案内

東京中国文化センター所有の貴重な資料を  
岡崎嘉平太記念館にて特別公開します

日中国交正常化40周年記念

写真パネル等で日中交流の歴史を振り返る

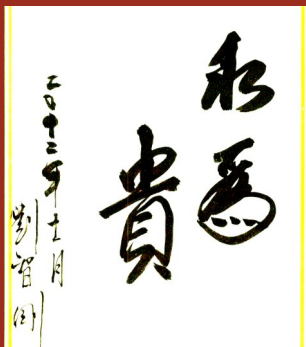
東京中国文化センター所有写真による

# 日中国交正常化40周年のあゆみ写真展

平成25年 1月16日(水) - 2月4日(月)



わくわく★ おかざきかへいたきねんかん ほかせ  
岡崎嘉平太記念館 博士



これは、おかざきかへいたきねんかん 岡崎嘉平太記念館が、ちゅうごく 中国・ぺきんし 北京市からお招きした、まね 劉智剛さんがりゅうちこう 揮毫(毛筆で書くこと)されたきこう 色紙のもうひつ 写真です。劉さんは、かへいた 嘉平太さんのゆうじん 友人で、なかよ 「仲良くすることがとても大切」というたいせつ 願いをねが 込めて書いてくださいました。新しい年を迎え、仲良くすることをおも 忘れない一年にしたいと思います。



編集・発行：岡崎嘉平太記念館

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川4860-6 きびプラザ内

TEL 0866-56-9033 FAX 0866-56-9066

ホームページ <http://www.okazaki-kaheita.jp>

Eメール [okmh@okazaki-kaheita.jp](mailto:okmh@okazaki-kaheita.jp)

2013年1月発行